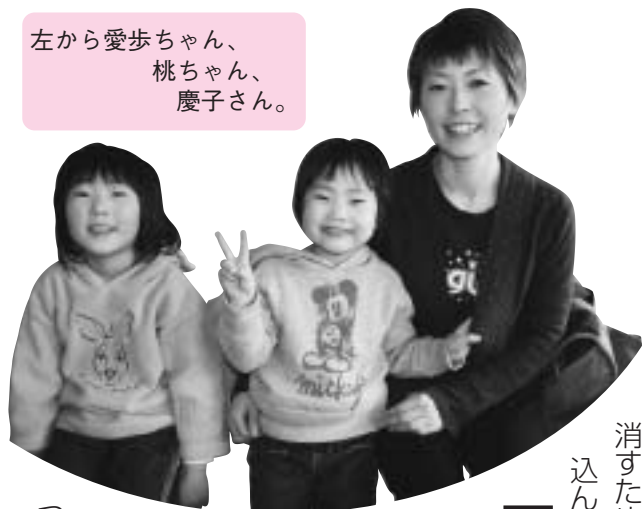


左から愛歩ちゃん、
桃ちゃん、
慶子さん。

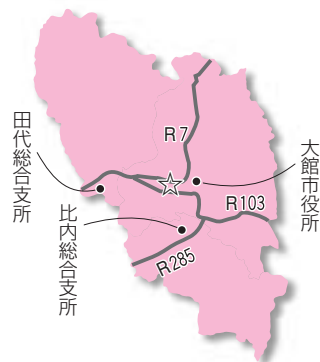


歩いて会って何でも話す
ワクワクの突撃取材

あつてグッド

32
市民の皆さんが
たくさん登場

☆今回訪ねたのは
「大館アメッコ市」
H20. 2. 9取材



今 年の冬はとっても寒いですね。灯油が高くなった分、節約しなきゃいけないもんだから余計に寒さが身に染みます。そんな寒い中で、「大館の冬の風物詩」アメッコ市へ突撃取材。アメッコ市は、今から420年前の1588年(天正16年、安土桃山時代)から続いている行事で、大館中央通りにたくさんさんの露店が軒を連ね、アメを買い求める人々にぎわっています。アメッコ市に天候が悪化すると言われるのは、白ひげ大神が、近くの山からアメを買いに来て、帰りにその足跡を消すために吹雪にするからだとか。暖かい下着を着込んで、いち早くアメを食べて、レッツゴー！

夏 にイベントを開催した「ゼロダテ」のカフェで、一風変わったカレーを食べていたのは、**田澤慶子さん**(有浦6丁目)、**愛歩ちゃん**、**桃ちゃん**の親子。愛歩ちゃんと桃ちゃんの前には大きなシフォンケーキとオレンジジュースが並んでいます。先程いらしたばかりで、まずは腹ごしらえ。「このカレーは、スープのような感じで、なかなかイケル」と慶子さん。「抹茶のケーキおいしい」って食べていたのは愛歩ちゃん。桃ちゃんは「オレンジジュースおいしい」とかわいいた顔をみせてくれました。出てきたつばを思わず「クリ」。

次 から次へといろんな細工アメを作る技の持ち主は、**三浦洋一さん**(中神明町)。アメを取り出したかと思ったら、あつと言つ間に動物に変身。「もう50年以上こうしてアメ細工をしている。アメの硬さが一番大切なんだ。だから細工するには、短時間でやらないと、すぐに硬くなってしまふ」と話している間に、手際良くアフリカ象を作り上げてしまいました。まさに職人の技。周りの子どもたちも大喜び。

フ オォー、ブオォー」と、そこにほら貝の音。どうやら白ひげ大神の巡行が始まったようです。山伏のほら貝を吹くのは**大庭繁樹さん**(山神台)。「もう19年間、ほら貝を吹き続けています。ほら貝は吹くけど、ホラは吹きません(笑)。そろそろ後輩にバトンを渡したいんだけど」。いつもは2人ですが今年の巡行は一人で吹くのだそうです。



ほら貝は吹いても
ホラは吹かない繁樹さん。



この道50年を超える洋一さん。